

中学生の自己肯定感

- 家族関係および攻撃性との関係について -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
高橋 睦美

近年，子どもの問題行動が注目されており，小学校，高等学校に比べて，中学校で特に他者に対する攻撃行動が顕著に現れている(文部科学省，平成17年度版)。この時期において見られる問題行動には，自己肯定感の低さが影響していると言われている(諸富，1999)。Storr,A(1968/1973)は攻撃性を，成長にとって必要かつ貴重な要素としての独立に向かう衝動としてとらえた。こうしたことから，自我同一性の獲得が課題となる中学生において，攻撃性がとても重要な意味を持つと考えられる。以上のことから，本研究では，中学生における攻撃性と自己肯定感の関連を検討し，自己肯定感に家族関係がどのように影響を与えているかについても検討することを目的とした。公立中学校2校に在籍する1年生から3年生の計646名を対象として，「自己肯定意識尺度」「家族機能測定尺度」「中学生用攻撃性質問紙(HAQS)」を用い，調査を行った。「自己肯定意識尺度」は自己受容，自己実現的態度，充実感，自己表明・対人的積極性の4つの下位尺度から構成されており，「中学生用攻撃性質問紙(HAQS)」は身体的攻撃，敵意，言語的攻撃，短気の4つの下位尺度で構成されていた。本研究の結果から，家族関係を良好に感じている者ほど自己肯定感が高いことが分かり，特に，本研究においては，家族関係の良好さに自己肯定感のすべての要素が関係していることが新たに見出された。また，自己肯定感と攻撃性との関連を調べた結果，身体的攻撃・敵意・短気は自己肯定感と負の相関を示したが，言語的攻撃のみ自己肯定感と正の相関を示し，攻撃性の中でも言語的攻撃はポジティブな面を含んでいることが確認された。男女に共通して見られた関係としては，自己受容，充実感，自己表明・対人的積極性と言語的攻撃の間に正の相関，充実感と敵意・短気には負の相関という関係性があった。また，男子においてのみ，自己受容と短気との間に負の相関，自己実現的態度と言語的攻撃との間に正の相関の関係性が示され，女子においては，自己実現的態度，自己表明・対人的積極性と敵意との間に負の相関，充実感と身体的攻撃との間に負の相関の関連が見出され，男女において，攻撃性のタイプと自己肯定感の要素との関係性が異なることが明らかとなった。また，本研究の結果からは，攻撃性との関連においては，「充実感」が自己肯定感の中でも特に重要な意味を持つことが示唆され，自己肯定感との関連においては，「言語的攻撃」が攻撃性の中でも特に重要であることも見出された。これらのことは，これまでの研究で明らかにされてこなかったことであり，今後，中学生の攻撃性を理解する上で，子どもたちの自己肯定感の要素を理解する必要性が示されたといえる。